

社会認識形成と世界像形成の統合による小学校社会科授業開発

—第4学年単元「どうする！ゴミ問題」を事例として—

佐藤 克士 吉水 裕也

1 研究目的

本研究の目的は、社会認識形成と世界像形成の統合をめざす小学校社会科の授業モデルを開発することである。

2 研究方法

- (1) 先行研究をもとに、わが国の小学校社会科学習の特質と課題を整理する。
- (2) イングランド初等地理テキストブックの内容構成を分析する。
- (3) (2)の成果をもとに、授業設計の視点を措定する。
- (4) 社会認識形成と世界像形成の統合をめざす小学校社会科授業を開発する。

3 研究内容

(1) わが国の小学校社会科学習の特質と課題

これまで小学校社会科における授業開発研究は、学習指導要領に基づく社会科学習への批判として展開されてきた。それらの研究は、一つは共感的理解の原理に基づき常識的な見方・考え方に留まる社会科学習への批判として、もう一つはカリキュラムの編成原理である同心円の拡大主義に基づく社会科学習の批判として展開されてきた。前者に関する研究の特質は、学習内容の科学化や構造化を図り、科学的探求の論理に基づき、科学的知識（転移性の高い理論的・概念的知識）の獲得をめざす点にある。しかし、認識対象がローカル・ナショナルに留まっており、今日のグローバル化した社会のしくみやその特質を理解させる構成とはなっていない点に課題が見出される。一方、後者に関する研究の特質は、学習指導要領の枠に囚われず、実験的に世界地誌学習を構想・実践している点に見出される。すなわち、あるテーマや社会的事象について国内と世界の2つの視点からアプローチすることを通して、子供に豊かな世界像形成を企図しているのである。しかし、学習の結果として形成される認識内容は、事実理解に留まっており、事実の背後にある要因や理由について理解させる内容となっていない点が課題として指摘できる。

以上、これまでの小学校社会科における授業開発研究は、社会認識形成または世界像形成いずれか片方に重点を置いた研究となっており、両者の統合による授業は提案されていない。とりわけ、地理に関する学習については、両者の論理を踏まえた構成とすることで、今日のグローバル化した社会に対応した望ましい認識内容を保証することがで

きる。

(2) 分析対象としてのイングランド初等地理テキストブックとその内容構成

本研究では、イングランドにおける初等地理テキストブックを分析することを通して、社会認識形成と世界像形成の統合による授業のあり方について検討する。分析対象としてイングランド地理テキストブックを取り上げる理由は、第一に、イングランドのそれが社会諸科学の研究成果を反映し、社会認識形成に有効性の高い内容構造を有している典型例として高く評価されているからである。第二に、イングランドのそれが、わが国のカリキュラム編成原理とは異なる多核的同心円拡大法という原理で学習が構成されているからである。多核的同心円拡大法に基づくカリキュラムでは、小学校低学年段階（KS1 段階）から自分が居住する場所周辺の地域社会（身近な地域社会）のみならず、遠方であるが比較的容易なスケール（ロカリティ規模）の地域社会をも学習する構成となっている。このような原理に基づいてカリキュラムを編成すれば、初等教育の早い段階から狭い空間的範囲にせよ、居住している場所だけでなく、世界各地を学習し、世界像を構築することができる。

以上、このようなイングランド地理教育の特質を踏まえた上で、本研究では、社会認識形成の視点から学習の結果として獲得する知識の質を、世界像形成の視点から取り上げられている事例地と空間的スケールの特質を分析していく。前者に関しては、設定されている学習課題（アクティビティ）を分析対象とし、社会科教育で一般的に用いられる知識論をもとに記述、説明、判断に分類する。

ここでは、具体的にイングランド初等地理テキストブック *Geography Success Book3* に収録されている単元「Water」を分析対象とし、本単元における社会認識形成と世界像形成の特質を検討する。単元「Water」を分析する理由は、わが国でも展開されている第4学年単元と比較・検討することが可能であり、わが国のそれとは異なる多核的同心円拡大法の論理に基づき、その特徴が顕著に見られるからである。すなわち、単元「Water」の内容構成を解明することができれば、社会認識形成と世界像形成の統合に向けた授業開発の視点について、具体的な示唆を得ることが期待される。

分析の結果、本単元は、(学習者にとっての) 身近な存在である水の存在をめぐり、地域によって水事情が異なること、また水資源の確保をめぐり様々な問題(「水問題」)を抱えている地域があること等を理解させることを通して、定期的に水不足に陥る国やより貧しい国々に対して可能な援助を考えさせる構成となっている。すなわち、水を“窓”にして世界の様々な地域社会の現状を理解させた上で、同じ地球市民としてできる援助や支援を考えさせる構成となっている。具体的に社会認識形成の視点から整理すると、学習活動(設定されているアクティビティ)を通して獲得される知識の質については、位置や場所をはじめ、そのほとんどが「記述」を求める問いや課題が設定されている。これら問いや課題は、汚水を濾過材できれいにする実験をさせたり、バケツに入った5kgの水を遊び場まで運ばせる活動をさせたりして、体験的に獲得するよう企図されている点に特質が見出される。一方、遊牧民の生活様式や行動様式、気候が人々の生活に与える影響などに関して「説明」をもとめる問いや課題が設定されている。本単元では、これら獲得した知識を活用して、定期的に水不足

に陥る国やより貧しい国々に対して可能な援助について考えさせる構成となっている。すなわち、獲得した知識を活用して世界が抱える社会問題について思考・判断させることを通して、一地球市民としての資質・態度を育成することが企図されている。

一方、世界像形成に関しては、学習対象である水について、学習者の身近な地域だけでなく、北アフリカ（サハラ砂漠）、ブラジル（アマゾン）、スーダン（飢饉救済キャンプ）、インド（コルタカ）等、英国以外の特徴的な水事情の国・地域に暮らす人々の生活様式や行動様式について同規模（ローカルまたはリージョナル・スケール）で捉える構成となっている。その際、「人々が未だにコレラを患っている 2 つの国の名前を見つけなさい」や「ニュースに出ている干ばつと飢饉の場所を大きな世界地図に印を付けなさい」など、地図帳に書き込んだり、印を付けたりする学習がセットである点が注目される。このように地図で位置や場所を確認する学習とその場所（国や地域の生活様式や行動様式）について参考図書やインターネットなどを使って調べたり、考えたりするといった学習を通して、学習者は居住地だけでなく、世界各地の国々を位置や様子をイメージの伴ったものとして認識する構成となっている。このような内容構成は、自国のしかも身近な地域の水事情だけを理解させることを目的とするわが国の第4学年「水の学習」とは明らかに異なる点である。社会科学習を通して身につけさせたいものが、空間軸、時間軸、社会（人間）軸であるとするならば、このように初等段階から世界について扱うことは、望ましい世界像（空間軸）を形成する上で極めて有効な内容構成であると判断できる。

(3) 社会認識形成と世界像形成の統合による小学校社会科の授業設計の視点

ここでは、イングランド地理教育のテキストブック分析を通して得られた知見をもとに授業設計の視点を措定する。

社会認識形成の視点に関しては、作業的・体験的な活動を通して、事実を認識させ、その背後になる要因や理由を「なぜ疑問」によって探究させる学習を展開すれば、科学的知識を獲得することができる。また、獲得した知識を活用して世界が抱える社会問題について思考・判断させる活動を組み込めば、一地球市民としての資質・能力をも育成することができる。

世界像形成の視点に関しては、取り上げる学習対象について、学習者の身近な地域と特徴的な同規模（ローカルまたはリージョナル・スケール）の事例地を複数取り上げ、その場所の位置や特徴を地図や資料をもとに調べたり、考えさせたりする学習を展開すれば、イメージの伴った認識（世界像）を形成することができる。

(4) 授業モデルの開発

上記で整理した授業設計の視点をもとに小学校第4学年単元「どうする！ゴミ問題」の授業モデルを開発する。

① 単元目標

〈知識及び技能〉

○身近な地域及びわが国の特徴的な地域のゴミ処理の特質について説明することができる。

○国境を越えるゴミ問題について、問題点とそれが与える影響を説明することができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉

○身近な地域社会のあるべきゴミ処理方法について、他地域の事例を参考にしながら合理的に意志決定することができる。

○国境を越えるゴミ問題（漂着ゴミ）について、関係する様々な立場からできること・すべきことを提案することができる。

〈社会的事象に主体的に関わろうとする態度〉

○身近な地域社会や他地域及び世界で問題視されているゴミ処理について関心をもち、予想を立てたり、資料をもとに検証したりする等、意欲的に追究しようとしている。

② 単元の概要（全 14 時間）

本単元は、3つのパートで構成される。

第一次は、身近な地域のゴミ処理方法について認識するパートである。ここでは、普段何気なく捨てているゴミがどのように処理されているのかを、実際にゴミ出し体験をしたり、その行方を見学したりすることを通して、ゴミを分別する意味、理由を認識させることをめざす。

第二次は、他地域のゴミ処理方法について認識したり、それらの認識を踏まえ、身近な地域のあるべきゴミ処理方法について考えさせたりするパートである。ここでは、江東区（東京 23 区）とは異なるゴミ処理をしている徳島県上勝町や福岡県福岡市（春日市、太宰府市等を含む）を事例に、処理方法の特質やその意味（事実の背後にある価値を含む）及び理由を認識するとともに、それらを参考に身近な地域のあるべきゴミ処理方法について合理的に意志決定することをめざす。

第三次は、ゴミの不法回収や海洋投棄、漂着ゴミを事例に、国際的に問題視されている国境を越えるゴミ問題について認識したり、問題の解決に向け、関係する様々な立場（日本政府、地方自治体、企業、NPO 団体、私たちなど）からできること・すべきことを考えさせたりするパートである。ここでは、不法回収や海洋投棄、漂着ゴミを事例として取り上げることで、ゴミが国境を越えて、様々な国々に影響を与えたり、与えられたりしていることを認識させることをめざす。また、それらの解決に向けては、国際的なルールや相手国との話し合い、及び関係する様々な立場の人々と協力しなければならないことを、資料をもとに調べ・考えたり、発表（議論）したりすることを通して認識させることをめざす。

このようにゴミを“窓”に、その処理方法や意味及び仕組みについて認識対象を空間的に拡大させて学習を展開とすれば、身近な地域や国内のみならず、世界の様々な地域社会を認識させることができる。また、ゴミ処理や現代社会が抱えている問題について意志決定させる学習を展開すれば、認識形成に留まらず一地球市民として求められる資質・能力をも育成することが可能となる。

単元「どうする！ゴミ問題」の単元構成

次	時	■主な学習活動	主な教師の指示・発問 【記述○，説明◎，判断●】	事例地 (スケール)
第一次 身近な地域のゴミ処理	1	■ゴミの処理方法について生活経験をもとに予想する。	○江東区ではゴミを何種類に分けているのでしょうか。 ○分けたゴミが各々どこに行くのか予想してみよう。 ○予想したことが本当に合っているのか，実際に調べてみよう。 ※実際に，1週間ゴミ出しを体験する。	東京都江東区 (国内/ローカル)
	2	■一週間のゴミ処理体験を通して分かったことを発表するとともに，学習問題を設定する。		
	3	■ゴミを分別しなければならぬ理由や曜日によって出すゴミを分けなければならぬ理由を，ゴミ収集作業員の方インタビューする。	○実際にゴミ出しをしてみて，分かったことを発表しよう。 ◎どうして，曜日によって出すゴミが違うのだろうか。また，どうして，ゴミは分別して出さなければならぬのだろうか。	
	4 5	■可燃ゴミ(清掃工場)，不燃ゴミ(不燃ゴミ処理センター)の処理方法について，見学を通して調べる。	○それぞれのゴミは，どのような場所で，どのように処理されるのだろうか。 ○地図帳を開いて，新江東清掃工場(江東区)，西台粗大ゴミセンター(板橋区)，中央防波堤外側埋立地(大田区・江東区)に印を付けなさい。 ○捨てたゴミがどのように処理されるのかを見学資料及び参考図書等を使ってフローチャートを描きなさい。 ◎どうして，ゴミは分別しなければならないのだろうか。	
第二次 他地域のゴミ処理	6 7	■徳島県上勝町で，ゴミを51種類に分類している理由について調べる。 ■徳島県上勝町の事例をもとに，地域のあるべきゴミ処理方法について考える。	○他の地域でも，同じようにゴミを処理しているのだろうか。 ○地図帳を開いて，徳島県上勝町に印を付けなさい。 ○徳島県上勝町では，どのようにゴミを処理しているのだろうか。 ◎どうして，徳島県上勝町では，ゴミを51種類も分類しているのだろうか。予想してみよう。 ●私たちの地域のゴミ処理は，現状維持(4種類)がよいのでしょうか。それとも徳島県上勝町のようにもっと沢山の種類に分類して収集したほうがよいのでしょうか。自分の考えを発表しなさい。	徳島県上勝町， 東京都江東区 (国内/ローカル，リージョナル)
	8 9	■福岡県福岡市(春日市，太宰府市等を含む)で，ゴミを夜間(午後10時)に収集している理由について調べる。 ■福岡県福岡市の事例をもとに，地域のあるべきゴミ処理方法について考える。	○徳島県上勝町以外に私たちの地域とは異なるゴミ処理をしている地域はあるのだろうか。 ○地図帳を開いて，福岡県福岡市に印を付けなさい。 ○福岡県福岡市では，どのようにゴミを処理しているのだろうか。 ◎どうして，福岡県福岡市(春日市，太宰府市等を含む)では，ゴミを夜間(午後10時)に収集しているのだろうか。ゴミを夜間に集めるメリットについて考えてみよう。 ○福岡県福岡市(春日市，太宰府市等を含む)で，ゴミを夜間(午後10時)に収集している理由について福岡県福岡市HPをもとに調べなさい。 ●私の地域のゴミ処理は，現状維持(日中収集)がよいのでしょうか。それとも福岡県福岡市のように夜間に収集した方がよいのでしょうか。自分の考えを発表しなさい。	福岡県福岡市 (春日市，太宰府市など)， 東京都江東区 (国内/ローカル，リージョナル)

第三次 国境を越えるゴミ問題とその対策	10	<p>■わが国の家電ゴミが中国に運ばれている理由について考える。</p>	<p>○環境省が発行しているチラシを読んで気づいたことや思ったことを発表しなさい。</p> <p>◎どうして、環境省はこのようなチラシ（「無許可」の回収業者を利用するな!）を国民に配布して注意を呼びかけているのだろうか。予想してみよう。</p> <p>○無許可で回収業者が集めた家電ゴミは、どのように処分されるのだろうか。</p> <p>◎どうして、日本で不要となった家電は、中国（広東省・貴嶼）に運ばれるのだろうか。予想してみよう。</p> <p>○広東省・貴嶼の場所に地図帳に印を付け、その場所がどのような場所なのか、調べなさい。</p>	中国（広東省・貴嶼） （国外／ローカル、ナショナル）
	11 12	<p>■韓国や中国から来る漂着ゴミを事例に、海洋投棄の問題点を考える。</p> <p>■韓国や中国から来る漂着ゴミを事例に、国境を越えるゴミ処理のありべき方法について考える。</p>	<p>○写真（石川県赤住の海岸に漂着した大量のゴミ）を見て、気づいたことや思ったことを発表しなさい。</p> <p>○どのようなゴミが漂着しているか、またそれはどこから来たものなのか、地図帳や資料（「日本の海岸に漂着したペットボトルの製造国別割合」）をもとに予想しなさい。</p> <p>◎どうして、日本海側に地域（山口県下関地域や長崎県対馬市地域等）には韓国や中国のペットボトルがたくさん漂着しているのだろうか。予想しなさい。</p> <p>○資料（「海をゴミすて場にする」）をもとに、その理由を整理しなさい。</p> <p>○海洋投棄の問題は、海を汚すということだけなのだろうか。資料（「コアホウドリの死骸」「生態系に与える影響」）をもとに考えられる負の影響を考えなさい。</p> <p>●これらの漂着ゴミは、漂着した日本が処理すべきなのでしょうか。それとも持ち主（韓国や中国）が処分すべきなのでしょうか。自分の考えを発表しなさい。</p>	石川県赤住・中国・韓国 （国内・国外／ローカル、ナショナル）
	13 14	<p>■東日本大震災で発生した日本の漂着ゴミがアメリカに与える影響について考える。</p> <p>■東日本大震災で発生した日本の漂着ゴミを事例に、国境を越えるゴミ処理のありべき方法について考える。</p>	<p>○写真（アラスカの海岸に漂着した大量のゴミ）を見て、気づいたことや思ったことを発表しなさい。</p> <p>○どのようなゴミが漂着しているか、またそれはどこから来たものなのか予想しなさい。</p> <p>◎どうして、2011年3月11日の東日本大震災によって流出したのがれき（ゴミ）の多くは、アメリカ（オレゴン州・ワシントン州・アラスカ州等）に漂着したのだろうか。</p> <p>○資料（北半球の海洋〔NOAA Marine Debris Program HPより〕）をもとに、その理由を整理しなさい。</p> <p>◎これらの漂着ゴミが与える影響（経済・環境・生態系）にはどのようなものがあるのだろうか。資料（クローズアップ現代「震災漂流物」154トンの衝撃）をもとに考えなさい。</p> <p>●これらの漂着ゴミ（例えば、青森県から流れ着いた巨大な浮き桟橋）は、漂着したアメリカが処理すべきなのでしょうか。それとも持ち主（日本）が処分すべきなのでしょうか。自分の考えを発表しなさい。</p> <p>●今後、アメリカに漂着したゴミ問題を解決していくためには、日本の政府、地方自治体、企業、NPO団体、私たちができること・またすべきこととはどのようなことなのだろうか。</p>	アメリカ（オレゴン州・ワシントン州・アラスカ州等）・日本（青森県） （国内・国外／ローカル・リージョナル・ナショナル）

（佐藤作成）

4 成果と課題

本研究の目的は、社会認識形成と世界像形成の統合をめざす小学校社会科の授業モデルを開発することであった。本研究の成果は、第一に、社会認識形成と世界像形成の統合するための授業設計の視点を、定評のあるイングランド初等地理教育のテキスト分析から抽出・整理したことである。そして第二に、指定した授業設計の視点に基づき、具体的な授業モデル（主に単元構成）を第4学年「ゴミ学習」を事例に開発したことである。開発した授業モデルは、外国研究の成果を踏まえたものであり、当然のことながら現行教科書及び先行研究には見られない構成となっている。その意味で、小学校社会科授業研究に新たな研究の方向性を示唆するものである。今後は、開発した授業モデルの有効性を検証するとともに、本研究で指定した授業設計の視点に基づき、他単元の授業モデルを引き続き開発していくことが課題である。